

事業番号	43
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	勤労青少年ホーム運営管理事務			担当課	社会教育課	
事業期間	開始年度	昭和48年度 ~	終了予定年度	担当係	社会教育係	
総合計画	めざすまちの姿	1 人が育つまち				
	目標	⑥ 学習・スポーツ活動の環境を充実する（生涯学習・スポーツ振興）				
	成果指標	教養講座の利用者数	中間目標 (H27)	5,000人	最終目標 (H32)	
予算区分	一般会計	10 款 教育費	6 項 社会教育費	5 目 勤労青少年ホーム費		
	細事業	289 勤労青少年ホーム管理運営費				
位置づけ	関連計画					
	根拠法令	湖西市勤労青少年ホーム条例・湖西市勤労青少年ホーム条例施行規則				
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（					
対象（誰のため）	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他					
事業の目的（何のため）	勤労青少年のより良いコミュニケーションを図るとともに、教養の向上を推進する。					
内容（概要）	<p>○定期講座(20講座)、短期講座(2講座)を開催した。</p> <p>・定期講座 バドミントン、ハーブを楽しむ、初めてのヨーガ、津軽三味線、書道、ラテンフレイバー、楽しい料(火・金)、華道、大人が楽しむ英語絵本、陶芸、手作りパン(水・木)、太極拳、茶道、ボクシングエアロ、シルバーアクセサリー、和裁、フラワーアレンジメント、コーチング</p> <p>・短期講座 シルバーアクセサリー(体験)、お菓子作り</p> <p>【実績】 講座登録者数 280人 / 利用者総数 5396人</p>					
これまでの改善・見直しの状況	<p>・講座内容の精査を行うと共に、特色ある講座開催を調査した。</p> <p>・県内には勤労青少年ホーム自体の設置が少なくなっている現状で、今後のホームの在り方について、課内において方針を検討した。</p>					

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	8,003	10,378	7,741	(内訳)
	決算	7,259	9,918		物件費(旅費、消耗品、燃料費等) 3,774
財源内訳	国庫支出金				維持補修費(修繕費) 2,898
	県支出金				補助費等(講師謝礼) 3,246
	地方債				9,918
	その他	212	168	207	
	一般財源	7,047	9,750	7,534	
職員人件費	19,087	17,266	16,919	人工	2.3 人

### 3. 事業の評価

#### 事業の実施状況

活動指標	内容		平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
	単位					
講座登録者数	人	目標	250	250	270	112%
		実績	279	280		
講座利用者総数	人	目標	5,000	5,000	5,200	108%
		実績	5,529	5,396		
		目標				
		実績				

実績・改善	平成23度活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期講座を20講座開催した。</li> <li>短期講座を2講座開催した。</li> </ul>				
	課題・問題点となった事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設及び設備が全般的に老朽化しており、長期的にみた修繕計画が必要である。</li> <li>講座生の募集方法の見直しが必要である。</li> <li>今後の勤労青少年ホームの在り方について、策定が必要である。</li> </ul>				
	どう対処したか	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議会や利用者協議会において、委員から意見を聴取した。</li> </ul>				
	改善点	今後の勤労青少年ホームの在り方について、運営委員より意見を聴取し、活動方針等の見直しとした。			効果額 H24-H23 (千円)	

自己評価	事業目的の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養講座の利用者数については、目標を超える利用者があった。</li> <li>講座登録者数については、目標を超える登録があった。</li> </ul>				
	※必要性 事業を廃止・休止したときの影響	勤労者が余暇を利用しての教養講座の施設であるため、活動の場がなくなってしまう。				
	判定	<b>B 改善</b>	事業内容の見直しが必要	事業主体	市	
	判定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労者の余暇活動の場であるため、市が継続して事業を実施する必要がある。</li> <li>講座内容と受講生の募集方法について見直す必要がある。</li> </ul>				
	今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労青少年ホームの在り方を検証する必要がある。</li> <li>引き続き、勤労青少年ホームを広報こさい、より効率的な方法により市民に周知していく。</li> </ul>				